


# 国語科を軸とした教科等横断的な視点での カリキュラム・マネジメントを通して、 子どもたちの言語能力の育成を図る

枚方市立招提小学校



国語科で写真の効果を学んだよ。  
戦争のことを伝えるにはこの写真かな。

## Why

### なぜ取組みを進める必要があったのか（実態・背景）

- 児童の言語能力(特に、話す力・聞く力)に課題
- 国語科で学んだ言語能力を他教科や日常生活でも繰り返し使い、児童の言語能力を育成する必要があった。→カリキュラム・マネジメントの視点の必要性

## How


### どのように取組みを進めたか（取組みの概要）

- 国語科を中心とし、他教科でも言語能力育成の機会を設けるために、年間単元配列表を一年間の計画をもとに立てた。
- 児童の言語能力の進捗状況を年間単元配列表を用いて振り返り、「何ができて」「何がまだできていないのか」をはっきりさせ、こまめに活動の見直しを図った。(小さなPDCAサイクルを回す)
- 教職員一人一人が自主的に実践を進められるよう、「教職員みんなで学び、学んだことをみんなで実践する」スタイルで研究を進めた。

## Change

### どのように変容したか（学校・保護者・地域等）

- 教職員一人ひとりが学校全体を見通して教育活動が行えるようになった。
- 子ども自身が意識して、国語科と他教科で学んだことをつなげ、身につけた力をいろいろな場面で活用するようになった。
- 地域の方から、「招提小の子どもたちの成長」に関する声を多く聞くようになった。



相手の意図を捉えて聞く力がまだ弱いね

家庭科でも...

国語と算数のこの単元で取り組んでみようか。

## 1. はじめに

- (1) 本校の児童の実態
- (2) 子どもの実態を踏まえた研究テーマの焦点化－国語科の学びを他教科等に「つなげる」－

## 2. 研究の概要 –教職員のベクトルを揃えていくための取組み–

- (1) 最初につまずき –年間単元配列表の使い方–
- (2) P D C Aの見直し –小さなP D C Aサイクルを繰り返す視点–
- (3) 「みんなで学び、みんなで実践」の職員室文化を創る

## 3. 子どもにとっての成果と課題

- (1) 教科等横断的単元の学習と子どもの変容
- (2) 今後の課題

## 4. カリキュラム・マネジメント研究による成果と課題

- (1) 児童アンケートから見た成果と課題
- (2) 次年度に向けて

# 1. はじめに

## (1) 本校児童の実態

本校はこれまで、枚方市の「体力向上」にかかる研究指定校として、体育科の授業研究を進めてきた。その中で、チームの作戦を立てたり、アドバイスをし合ったりする「思考・判断・表現」の活動の際に、「チームメイトの話を最後まで聞けない」ことや、「自分の考えた作戦やアドバイスをうまく伝えられない」ことなどが授業中に見受けられ、児童の言語能力（特に、話す力・聞く力）に課題があることが分かった。また、生徒指導面から見ても、休み時間など日常生活において、コミュニケーションのやり取りの仕方が原因で児童同士がトラブルになることも非常に多かった。

## (2) 子どもの実態を踏まえた研究テーマの焦点化－国語科の学びを他教科等に「つなげる」－

児童の言語能力向上を図るため、研究教科を体育科から国語科に移し、初年度は「話す力・聞く力」の育成に取り組んだ。京都女子大学の水戸部修治教授を招聘し、国語科の授業改善に取り組む中で、「言語能力の育成には、児童の実態を踏まえた質の高い言語活動を行うこと」と「授業の中で学んだことを繰り返し使い、自分で活用できるようにすること」が大切だと学んだ。また、文部科学省のカリキュラム・マネジメントアドバイザーである大阪教育大学の田村知子教授の研修でも、「教科等横断的な視点で、教科と教科、単元と単元をつなげ、学びを活用する機会を作る必要性」を学んだ。

本校の教育活動において、国語科で学んだ言語能力を、国語科はもとより、他教科や日常生活でも繰り返し使うことで、児童の言語能力を育成することが重要課題となった。「1教科を基に他教科へ」の考えで、国語科の授業改善とカリキュラム・マネジメントの視点を結び付けて研究を行うこととなった。



# 2. 研究の概要 – 教職員のベクトルを揃えていくための取組み –

## (1) 最初のつまずき – 年間単元配列表の使い方 –

「国語科を中心とし、他教科でも言語能力育成の機会を設け、言語活動を繰り返し行う」といった教科等横断的視点で学習活動を行うため、年間単元配列表をもとに、どの単元とどの単元をつなげ、どんな学習活動を行うのか、一年間の計画を立てる機会を持った。

ところが、実際に年間の活動を見てみると、どれも言語能力育成の機会に思えてきて、「どこまで学習活動をつなげていいのかわからず、つながりの矢印だらけ」という状態や、「教科同士をつなげることが目的になってしまい、何がしたかったのか目標を見失う」という状態になってしまった。

そこで、先進的取組みを行う学校の視察に行き、年間の学習活動の計画の立て方を学んだ。

(次ページ参照)

第6学年 ①新士の関心 ②新士の思いに気づき、自分の言葉で表現できる力 友だちの思いに気づき、友だちの言葉を自分ごとのように聴ける力

月	音楽	算数	理科	総合	国語	外国語活動	社会	家庭	体育	図画工作
4	豊かな歌声をひびかせよう	2 材料を調剤 内の面積	12 ものが燃えるとき	10 国語(教科書) *世界の文化や言語について	1 物を探そう【国語】 *自分について	1 はじめまして自己紹介	1 雨づくりにあゆみ	9 わたしの生活時間	2 雨づくりにあゆみ(ストレッツ)	2 色を塗ろう
5	いろいろな音のひびきを味わおう	1 分数のわり算 分数のかけ算	5 ヒトや動物の体	10 【食育】 *健康と食の関わりについて	1 食うから楽しむ【国語】 *食の文化について	7 Do you have a? When is your birthday?	3 大団に学んだ国づくり	10 いためてつくろう	6 陸上運動(短距離走)	3 わたしの小さな神童
6	分数のわり算 分数のかけ算	10 分数のわり算 分数のかけ算	1 植物のつくりと はたらき	8 【情報】 *パソコンを使って歴史新聞をつくらう	1 漢字の部首・意味	2 I can swim.	4 今も受けつがれる 道庁文化	3 クラリオン大作戦	3 陸上運動(短距離走)	3 わたしの小さな神童
7	和音の美しさを味わおう	4 角柱と円柱の体積	6 動物どうしのつながり	6 【福祉】 *手帳について	1 漢字の部首【国語】	2 Turn right.	5 緑の結晶と人々の暮らし	5 春の季節を快適に	3 水泳 (クロール・平泳ぎ)	3 水泳 (クロール・平泳ぎ)
8	比と比の値	10 比と比の値	10 広げよう科学の世界を	3 17th Am. music	1 詩を味わおう【国語】	1 1st summer vacation	6 80年代の音楽	8 楽しくソング	10 体づくり運動 (多様な動きをつくる運動)	2 表現にこめた思い
9	比と比の値	10 比と比の値	9 みんなで学ぶ国語科	2 国語の教科書について	18 国語の成り立ち	2 国語の成り立ち	2 国語の成り立ち	6 国語の成り立ち	8 表現にこめた思い	2 表現にこめた思い
10	和音を味わおう	6 角柱と円柱の体積	13 月と太陽	7 【情報】 *歴史新聞をつくらう	1 漢字の部首【国語】	1 漢字の部首【国語】	4 戦争と人々の暮らし	7 戦争と人々の暮らし	4 陸上運動(走り高跳び)	4 陸上運動(走り高跳び)
11	和音を味わおう	6 角柱と円柱の体積	1 大地のつくりと変化	16 大地のつくりと変化	1 漢字の部首【国語】	6 What time do you get up?	6 平和で豊かな暮らしをめざして	8 くふうしよう	12 陸上運動(走り高跳び)	4 陸上運動(走り高跳び)
12	和音を味わおう	6 角柱と円柱の体積	1 大地のつくりと変化	16 大地のつくりと変化	1 漢字の部首【国語】	6 What time do you get up?	6 平和で豊かな暮らしをめざして	8 くふうしよう	12 陸上運動(走り高跳び)	4 陸上運動(走り高跳び)
1	日本と世界の音楽に親しもう	5 資料の調べ方	13 てこのはたらき	10 【図画工作】 *自分と世界の国の関係について	1 詩を味わおう【国語】	1 My Best Memory	8 戦争とわたしたちの暮らし	7 共に生きる生活	5 体づくり運動 (持久走・なわとび)	3 12年間の私
2	資料の調べ方	13 てこのはたらき	10 【図画工作】 *自分と世界の国の関係について	10 【図画工作】 *自分と世界の国の関係について	1 詩を味わおう【国語】	1 My Best Memory	8 戦争とわたしたちの暮らし	7 共に生きる生活	5 体づくり運動 (持久走・なわとび)	3 12年間の私
3	資料の調べ方	13 てこのはたらき	10 【図画工作】 *自分と世界の国の関係について	10 【図画工作】 *自分と世界の国の関係について	1 詩を味わおう【国語】	1 My Best Memory	8 戦争とわたしたちの暮らし	7 共に生きる生活	5 体づくり運動 (持久走・なわとび)	3 12年間の私

## －年間単元配列表の使い方：どうつなぐか－

- ① 学校教育目標を確認し、児童の実態から「児童につけたい力」は何かを考える。
- ② 「児童につけたい力」を各学年の児童の実態に合わせて、「具体的な姿」で表す。
- ③ 「つけたい力をつける」ために、「国語科で学んだことを他教科で使う」視点で、教科のつながりを探す。

①②③をもとに、年間単元配列表を使い、年間の活動を整理し、「話す力・聞く力を育成するためのカリ・マネ計画表」を作成した。「つけたい力」と「めざす子どもの姿」を整理することで、闇雲に教科同士・単元同士をつなげるといふ最初のつまずきを乗り越えることができた。（次ページ参照）

### 招提 KICOCA (聞く力 各学年系統指標) カード

- 基本** ① 相手の顔を見て聞く ② がおで聞く  
③ しょうけんめい聞く ④ しまいまで聞く  
⑤ なずきながら聞く
- 一年** 相手の話を集中して聞く。
- 二年** 知らせたいことや聞きたいことを落とさないように聞く。
- 三年** 伝えたいことや聞きたいことの中心をとらえて聞く。
- 四年** 話の中心をとらえて、自分の考えを持ち、質問したり感想を言ったりする。
- 五年** 話の内容をとらえ、自分の考えと比べながら、自分の考えをまとめる。
- 六年** 話の内容をとらえ、自分の考えと比べながら、それぞれの立場から考えをまとめたり広げたりする。

### 招提 IOCA (話す力 各学年系統指標) カード

- 基本** ① おを見て話す ② いごで話す（丁寧に話す）  
③ ちゃんと分かりやすく話す ④ えの大きさに気をつけて話す  
⑤ ちをしっかり開けて話す
- 一年** 声の大きさや速さに気をつけ、はっきりとした発音で話す。
- 二年** 話す事柄の順序に気をつけて話す。
- 三年** 自分の考えを、理由(わけ)や事例とともにくわしく話す。
- 四年** 自分の考えを、理由(わけ)や事例をあげながら、話の中心が伝わるように話す。
- 五年** 話の内容が明確になるように、事実と感想、意見を区別し、話の構成に気をつけて話す。
- 六年** 資料を活用するなどして、工夫して話す。

## ～系統立てて6年間で力をつける～

「話す力・聞く力」と言っても、イメージする「力」は人によってバラバラである。そこで、学習指導要領や児童の実態や課題と照らし合わせながら、各学年で身につけたい「話す力・聞く力」を話し合っただめた。各学年での具体的な「めざす子どもの姿」を決めることで、目標を明確にし、1年から6年まで系統立てて、力の育成に取り組むことができた。

基本を定着させ、着実に力をつけるために、「聞き方あいうえお」「話し方かきくけこ」を合言葉に、教室にカードを掲示し、授業内で折に触れて指導した。掲示物を貼ったままにせず、活用し、系統立てて取り組むことで教育効果を上げた。（KICOCAカード・IOCAカード）





## 「話す力・聞く力」の育成から、「共有する力」の育成へ

児童の言語能力育成に向けて、初年度は「話す力・聞く力」をつけたい力の柱に据え、研究に取り組んできた。児童の授業での姿やアンケート結果、招提チャレンジ(学期末テスト)の結果から、一年間の取組みを通して「話す力・聞く力」が徐々に身についてきたことが分かった。そこで、二年次は、一年次につけた「話す力・聞く力」をもとに、さらに対話する機会をさまざまな教科で設定し、国語科を中心として「共有する力」の育成を他教科でも図ることとした。「話すことができる・聞くことができる」という目標から、「聞いたり話したりする中で、自分や友だちの考えのよさやちがいに気づき、認め合うことができる」という目標へステップアップし、初年度の研究の上に二年目の研究を積み重ねることとした。

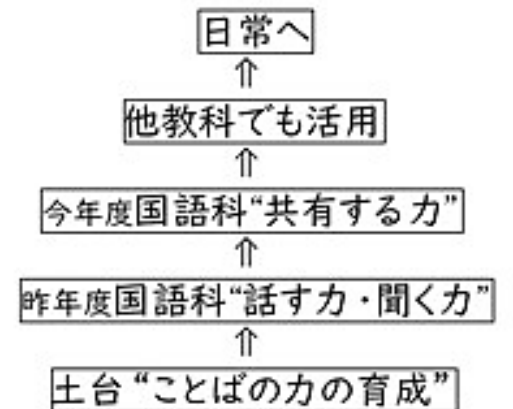
「対話する機会」をさまざまな教科で設定し、  
国語科を中心として「共有する力」の育成を他教科でも図る。

「共有する力」とは、どのような力なのか、全教職員で共通の意識を持つために、学習指導要領や児童の実態から、各学年での「つけたい力」「めざす子どもの姿」を具体的に決め、育成を図った。

学習活動や指導に迷ったときは、必ず「つけたい力」に立ち返るよう意識した。

### 「共有する力」各学年でつけたい力

- 第1学年 自分の考えや思いを持つ。
- 第2学年 感じたことや分かったことを共有する。
- 第3学年 感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方の違いに気づく。
- 第4学年 互いの感じたことや考えたことを理解し、他者の感じ方などのよさに気づく。
- 第5学年 意見や感想を共有し、自分の考えを広げる。
- 第6学年 意見や感想を共有し、自分の考えを広げ、深める。





## (2) PDCAの見直し –小さなPDCAサイクルを繰り返す視点–

これまで年間単元配列表においては、年度当初に計画（Plan）し、一年間を通して実施（Do）した後、年度末に反省として評価（Check）し、次年度に改善（Action）するという流れであった。

しかし、このPDCAサイクルの流れでは、年度末に反省をする頃には、細かな記憶は臆気で、年度内に活動を改善することはできなかった。

そこで、大きなPDCAサイクルの中に小さなPDCAサイクルを回していくことを大切にし、授業研究のC・Aと同様、各学期ごとに、年間単元配列表を用いて「カリ・マネ計画表」の進捗状況を振り返り、「つきたい力」育成に向けて、「何ができて」「何がまだできていないのか」をはっきりさせ、こまめに活動の見直しを図った。



ブロック学年会【担任や支援担、専科で構成】で、「カリ・マネ計画表」の進捗状況を振り返っている様子



## －見直し後の評価（Check）と改善（Action）の場・時期－

### 定性的評価

ブロック学年会〔2学年担任＋支援担＋担外で構成〕を活用し、

- ①「カリ・マネ計画表」の進捗状況の確認（学期ごと）
- ②授業や実際に行った言語活動の取組みについて意見交流（月1回以上）

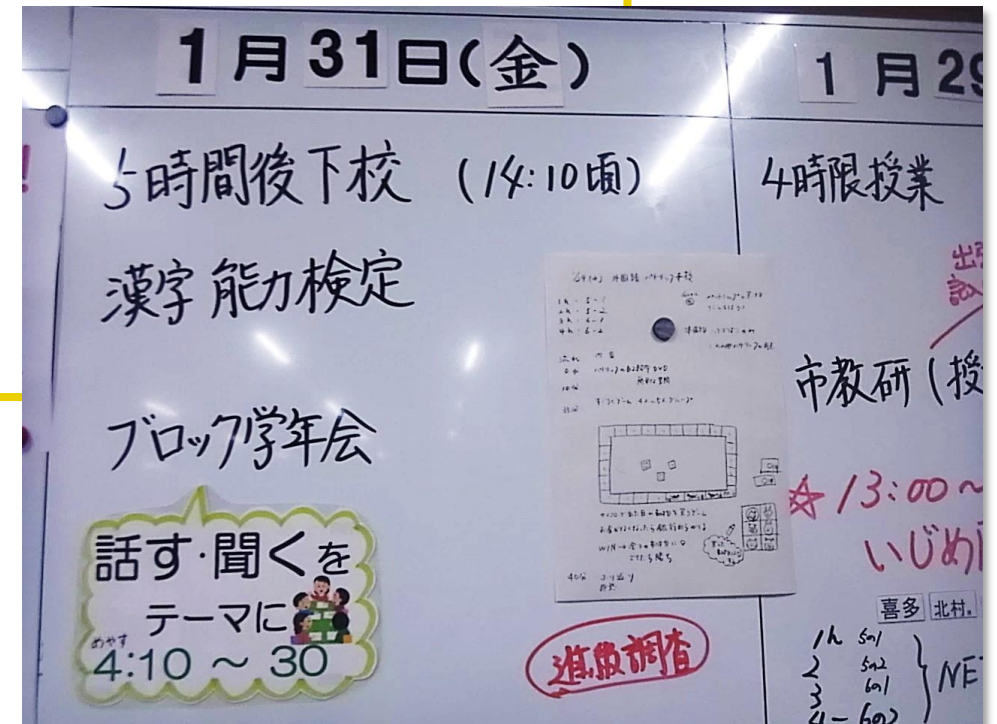
### 定量的評価

各学年で

- ①府作成「ことばのちから」を活用した招提チャレンジ問題の実施（学期ごと）
- ②児童の言語能力に関する意識・学習状況のアンケート（学期ごと）

定性的評価・定量的評価ともに、職員会議を活用し、教職員全体で共有する場も必ず設けた。

特に、有効であった各学年の取組みを紹介し、他の学年にも広げ、全校で取り組むという意識を持つようにした。



### (3) 「みんなで学び、みんなで実践」の職員室文化を創る

学校全体の教育活動を、管理職や研究主任だけが見通すのではなく、カリキュラム・マネジメント研究を通して、教職員一人ひとりが学校全体を見通して教育活動が行えるよう、ステップを踏んだ。

教職員一人ひとりが自主的に実践を進められるよう、「みんなで学び、学んだことをみんなで実践する」スタイルを採った。

#### —“みんなで学び、みんなで実践”スタイル—

①年度初めの研修で、課題意識を共有 「ここをがんばろう」

②みんなで実践し、学び合う

「みんなやっているから授業について相談しやすい」

③実践の共有

「こうすればよかった」がわかるから「やってよかった」





## ① 年度初めの研修で、課題意識を共有「ここをがんばろう」

年度初めに研修を行うことで、「めざす子どもの姿」や「今、求められている授業」について、教職員みんなで話し合ったり学び合ったりする機会を持つことができる。年度初めという時期を逃さず捉え、最初にみんなで児童の課題を共有し、授業について語り合うことで、「めざす子どもの姿や授業」といったゴールのイメージを共有しながら、教職員一人一人が、「今年はこちらをがんばろう」と自分の中に課題意識を持って、自主的に実践を進めるきっかけとなった。

### 「質の高い言語活動」についての学んだ際のキーワード

- ・学習者主体の授業
- ・つきたい力を明確にし、児童の実態に合わせた言語活動を設定する など

### 教職員の声 ～研修の振り返りより～

授業の指導ポイントを学んで、授業のイメージが少しずつわかってきた。

めざす子ども像もハッキリと見えてきました。単元のゴールはハッキリさせていても、それをつなげられていないと感じていたところなので、これから自ら本に手をのばし、読みこなす子の育成をめざします！

“この話のここが好き”という気持ちで学習を進められたら、とても楽しく国語の学習ができることがよくイメージできました。学年ごとの指導の発展についてもよくわかりました。



## ② みんなで実践し、学び合う「みんなやっているから授業について相談しやすい」

- 「みんなで」授業づくり（夏季研修）
- 略案を持って、「みんなの」授業をみに行こう！（相互授業参観）

### 夏季研修

夏の研修に2学期の授業づくりを設定し、みんなで相談しながら授業の準備を行った。

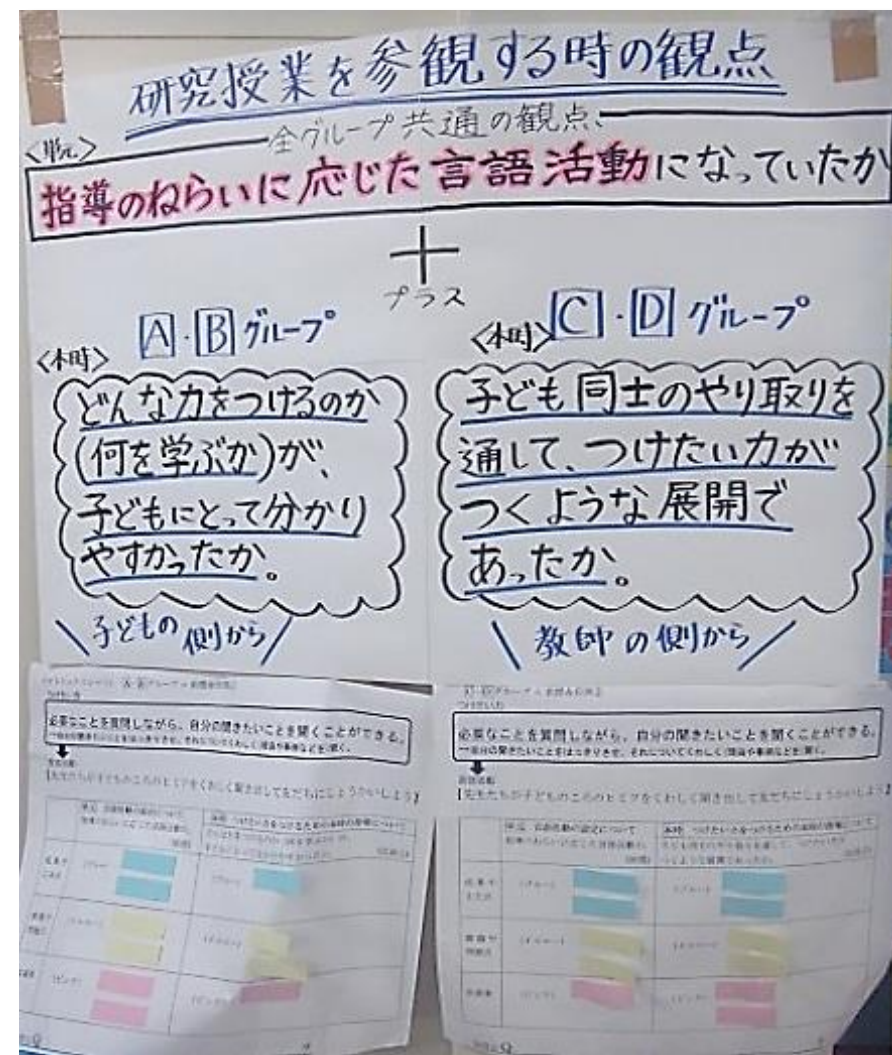
- ・学年を主としたグループで言語活動を設定し、単元を構想
- ・ワールドカフェ方式で、さまざまなグループの人と意見交流

「その言語活動は学年の子どもにぴったり？」  
「その言語活動は指導事項とぴったり？」

### 相互授業参観

「みんなでやってみる」ことを大切に、全教職員で年間1本の授業を公開した。

- ・研究仮説の中から、「どこをがんばる」かを選んで略案作成
- ・授業公開日はカレンダーに載せ、わかりやすくお知らせ
- ・二年次はコロナ感染症対策や授業時数確保も兼ねて、授業をビデオに撮り、放課後にビデオを見ながら授業研究を行った。





## ② みんなで実践し、学び合う「みんなやっているから授業について相談しやすい」

### ○「みんなで」学ぶ（先進校視察）



「みんなで」学び、「みんなで」授業について語り合う中で、普段の職員室でも、自然と、子どもの姿や授業での様子、言語活動や指導事項についての話題がとびかうようになった。

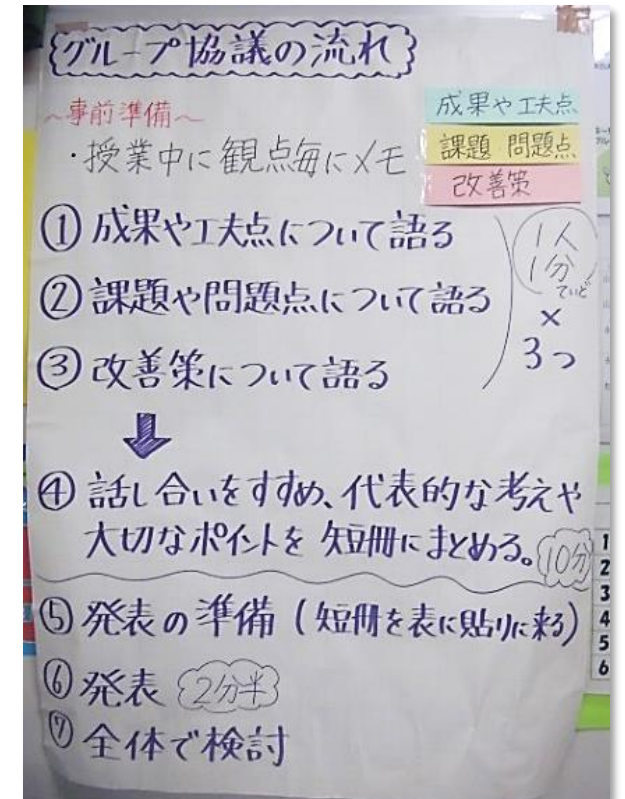
授業でうまくいったことや、むずかしかったことなどを放課後に自然と話ができる環境のおかげで、安心して授業に取り組むことができる。

「みんなが」授業を工夫して考え、準備しているので、職員室でアイデアをもらい、互いに刺激を受けることができる。

### ○「みんなが」語れる研究協議

（マトリクス法と短冊法を用いて誰もが話せる場づくり）

- ・マトリクスを使うことで「何」について話すのがハッキリ！
- ・マトリクスに沿って一人一人語る時間が必ず確保されている
- ・グループでの話し合いを短冊で端的に可視化し、全体で共有しやすくする  
→全体での協議に便利



### ③ 実践の共有 「“こうすればよかった”がわかるから“やってよかった”」

- ・実践した言語活動の良かった点・改善点をミニ冊子で配付、ブロック学年会で意見交流

**2学期 「話す・聞く」単元**

つきたい力×子どもの実態

## 言語活動の実践

児童の実態が変われば、  
言語活動における児童の様子も変わる！

ブロック学年や今後の実践等にご活用ください。

2学期  
「“つきたい力”と“子どもの実態”にぴったり」な言語活動の実践について  
つきたい力をおさえているか 子どもにとって何を学ぶかが分かりやすいか

研究・研修部

8月20日の校内研修を受けて、2学期に行った「つきたい力と子どもの実態にぴったり」な言語活動について、実践の様子をお聞かせいただき、学校で共有したいと思います。  
児童の様子、また、児童の様子から分かる良かった点・改善点などについて、記入してください。  
(例) 児童の積極性や参加率、学習に困り感のある児童がどれくらい参加できているか など

【 4年】

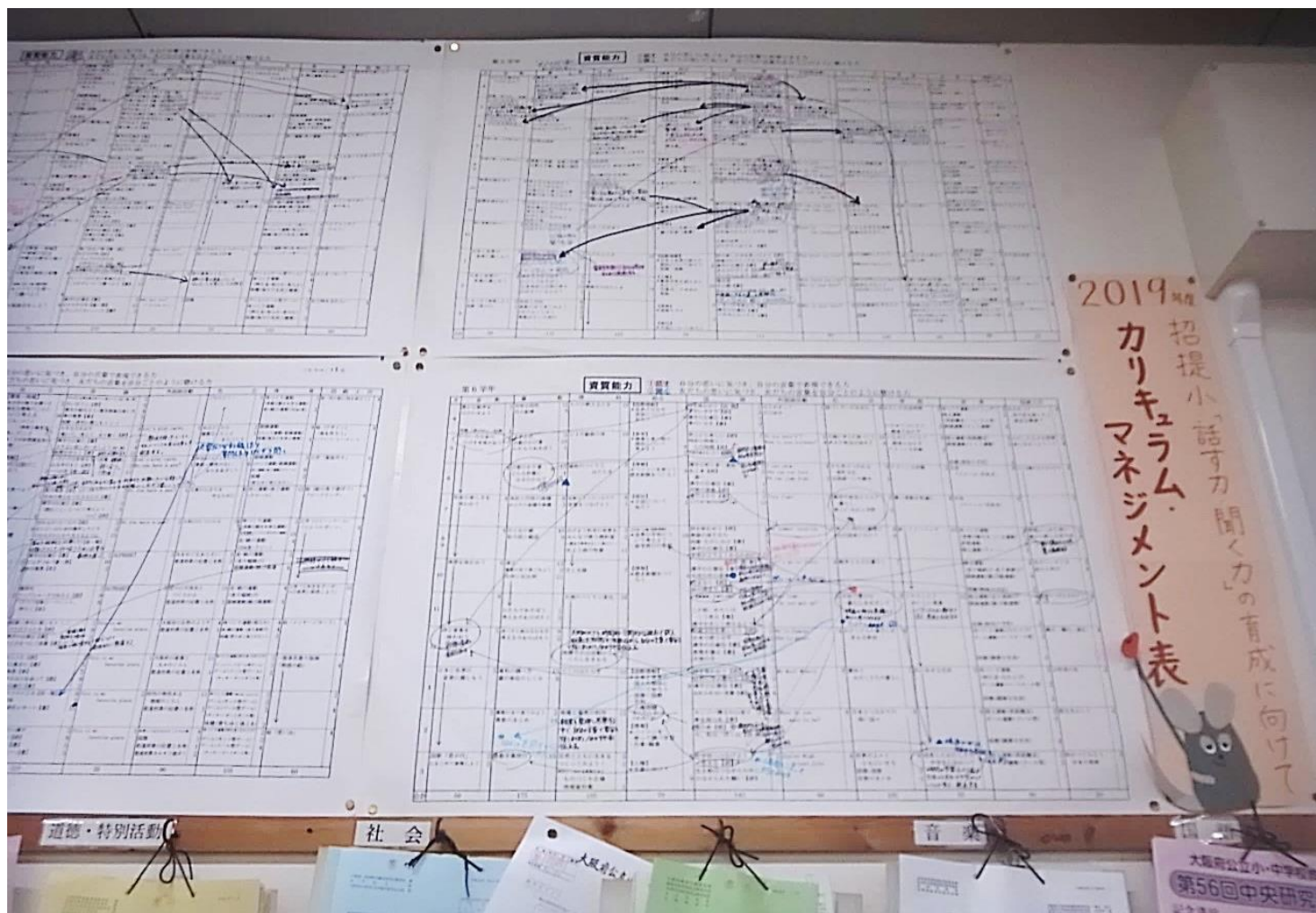
1. 単元名  
だれもが関わり合うために
2. 本単元でつきたい力  
目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。
3. 本単元で行う言語活動  
「令和」の新時代をともに生きていくために、だれもが関わり合うための、社会の工夫を調べて発表しよう。
4. 児童の様子、児童の様子から分かる良かった点と改善点など  
○自分で調べたいことを選んでの活動だったので、意欲的に取り組んでいた。  
○情報の分類について、児童が自分の基準で分けられれば良いことにしたので、評価がしやすかった。  
○情報を整理すると発表がしやすいことや、必要な情報と必要でない情報があることに気づけた。  
  
△メモの取り方に課題がある児童が少なくなかったので、引き続き他教科でも行う。  
△資料の情報が入ってこない児童への支援がまだまだ不十分であった。(声に出して一緒に読むなどの支援を行った。)





### ③ 実践の共有 「“こうすればよかった”がわかるから“やってよかった”」

- ・「カリ・マネ計画表」を職員室に掲示し、「誰もが」「いつでも」、学校全体の教育活動を「見える化」



#### 「見える化」の効果①

##### 単元がつながる・教科がつながる

- 全ての教科の活動を年間を通して、いつでも確認できる！
- これまでの活動やこれまでに身につけた力を頭に入れながら、次の単元を計画することができる！
- 各教科を横断して単元計画を立てやすい。

#### 「見える化」の効果②

##### 学年がつながる・全体がつながる

- 自分が行っている教育活動が学校全体の活動のどこを担っているのか確認できる！
- 各学年の目標を確認しながら6年間を通して、つけたい力をつけることができる！

### ③ 実践の共有 「“こうすればよかった”がわかるから“やってよかった”」

6年生 【C 読むこと】 物語教材			中心教材と言語活動				
学年目標	知・技	日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。	生お「を大「かに平「書「	き家「絵好風「せ、和「ヒ	方の「にきき切「よ平「ロシ	が人「表なる「ま朝「いてマ	座談「会をし方「
	思・判・表	筋道を立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げることができるようにする。	伝に「の「花「	わ「て「語「の「ば「さ「	よ「お「登「	ま「話「場「	ま「を「テ「
	態度	言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。	ま「が「	ま「が「	ま「が「	ま「が「	ま「が「
«対話的な学びのための作法» ・叙述に根拠（どこからそう思うのか）を求める。 ・自分と同じところ、違うところを伝え合う。 ・「～が言っているのは、こういうこと」と代わりに言えるくらいまでよく聞く。 ・分からないことは、くわしく聞き返す。			ま「が「	ま「が「	ま「が「	ま「が「	
【知・技】	読書	オ.日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付くこと。		○	○	○	
【思・判・表】	構造と内容の把握	イ.登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。	○	○	○		
	精査・解釈	エ.人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。	◎	◎	◎		
	考えの形成	オ.文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えをまとめること。				◎	
C読むこと	共有	カ.文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。	○	○	○	◎	
【知・技】	言葉の働き	ア.言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。					
	語彙	オ.思考に関わる語句の量を増し、語や文章の中で使うとともに、語句と語句の関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、五感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。					
	表現の技法	ク.比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。					
	音読・朗読	ケ.文章を音読したり朗読したりすること。	◎				
学習用語	・登場人物の関係（人物相関図）			○			
	・朗読		○				
	・心情の変化						
	・推薦する（他の作品や叙述と比較して、固有のよさを明確にする）				○		
	・読書座談会					○	

言語能力育成計画を資質・能力毎に整理し直し、1年から6年まで見通せる表「招提小オリジナル系統表」を作成した。

（使用した学習用語や、評価方法も合わせてまとめ、指導しやすくなるように）

ミニ冊子の配付も「カリ・マネ計画表」もオリジナル系統表も、学校全体で取り組んできたことを整理し、都度「見える化」して共有するためのもので、これらは教職員一人一人が少しずつ取り組みを進めてきた証でもある。

完成されたものではなく、みんなが取り組んできた一歩一歩が、学校全体での取り組みになり、子どもたちの成長へとつながっていったことは大きな成果である。



(Excel版)



(PDF版)



# 3. 子どもにとっての成果と課題

## (1) 教科等横断的单元 (※) の学習と子どもの変容

教科等横断的单元を通して学習を重ねていく中で、子どもの学習に対する意識が変わってきた。

－ 6年生の例－

### 国語科

『ヒロシマのうた』～戦争や平和について書かれた作品を読もう～

### 社会科

日中～太平洋戦争、戦争中の暮らしの様子を捉えよう

### 総合的な学習の時間

課題を見つけ、必要な情報を収集し、解決に向けて考えをまとめよう

### 【つきたい力】

本の読み聞かせを通して、戦争の恐ろしさや平和の大切さを、下級生に伝えるために、友だちと意見や考えを共有し、平和に対する自分の考えを広げ、深める。



※「教科等横断的单元」とは…

年間単元配列表やカリ・マネ計画表を作成するなかで、教科等横断的につながる学びを一つの“单元”として捉え、整理し直したものです。

## －子どもの変容－

①教員が意識して学びをつなげていた。

→子ども自身が意識して、学んだことをつなげ、身につけた力を活用するようになった。

②学んだこと・身につけたことをつなげて、課題解決に当たるプロセスを何度も経験することで、子どもが主体的に課題に取り組み、行動できるようになった。

(子どもの声)

「社会科で学んだこと以外にも知りたいことが出てきた。総合的な学習の時間でたくさん調べることができたので、本の読み聞かせで、想像力が高まり、気持ちを入れて朗読できた。」

上記のように、学習をつなげていく中で、「何が身についたか」「何ができるようになったか」が明確になり始め、振り返りの記述にも多く見られるようになった。

(子どもの声)

「社会科で戦争について学んだおかげで国語科の作品を読み深められた。」

「国語科で資料の効果学んだので、総合的な学習の時間で、必要な情報の集め方がわかった。」

**振り返り** 教科等横断的単元の学習後、振り返りを行う。

「学んだ力を使って何ができるようになったか」を視点に振り返る。

**発問例**

- ・総合の「××」学習の中で、国語で学んだ力を使ってできたことはありますか。ふりかえて書きましょう。
  - (例) 国語で学んだ聞き方を使って、××した。
  - (例) 発表の時、国語でやった話し方を使って、△△できた。
  - (例) ポスターを作る時に、国語で学んだ書き方を使って、□□□を工夫した。
  - (例) 話し合いの時に、国語で学んだ○○をしたけれど、話し合いがうまくいかなかったので、次は〇〇したい。
- ・国語で学んだ力を使って、次は、どんな勉強をしてみたいですか。

総合の平和学習で調べたからその資料もすぐにあったりしてすぐに本のしょうかいもできた。  
「サボテンの花」の朗読の力をつなげた



## (2) 今後の課題

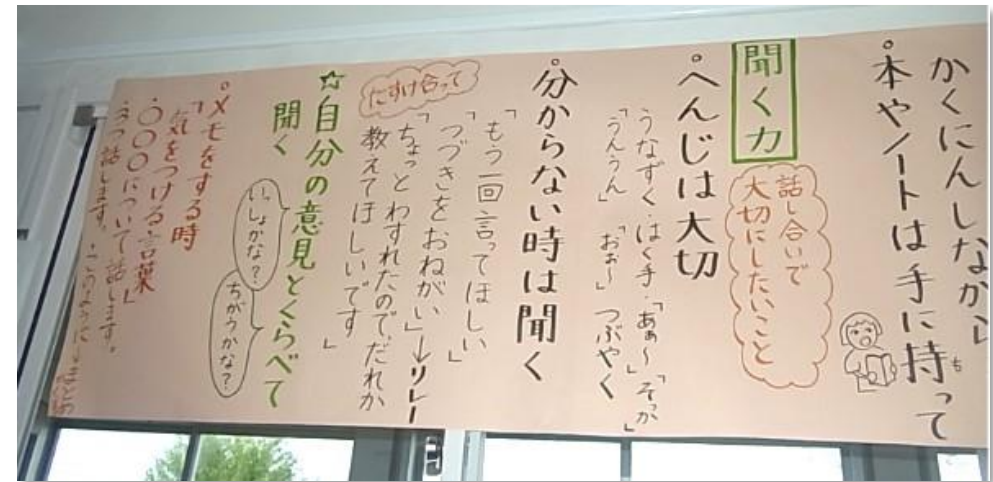
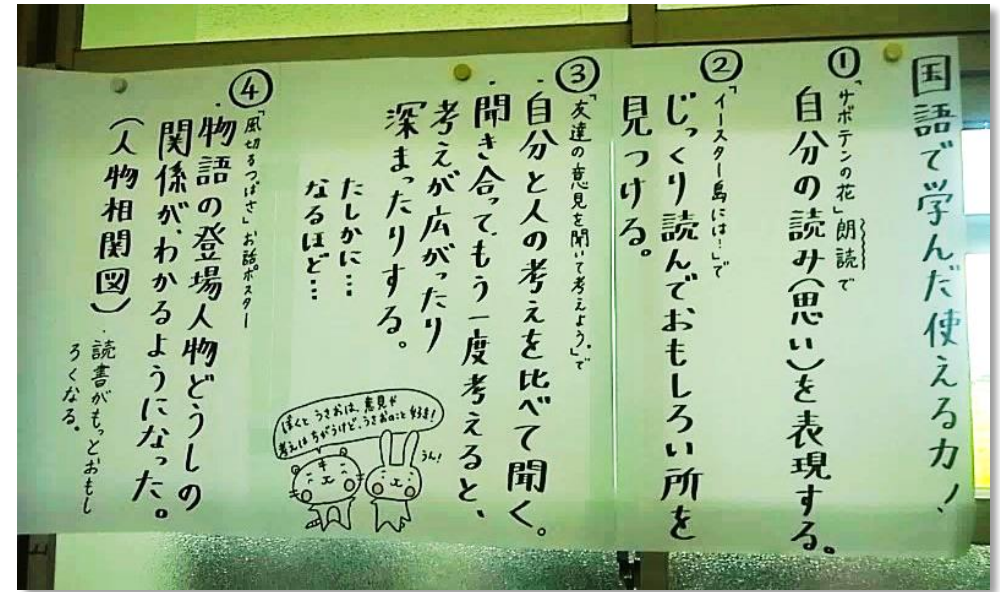
各学年、教科等横断的単元で学習を行うことで、教科で切り離されていた学びがつながり、身につけた言語能力を活用する機会は増えた。

しかし、児童アンケートや振り返りの記述において、「言語能力が身につけている」と児童の声が表れている学年にはばらつきが見られた。これは、児童への声かけ等を始めとした、児童のメタ認知への働きかけの弱さや、言語能力活用の方場の頻度の違いによるものと考えている。

そこで、今後は、「国語科で身につけた言語能力が他教科でも活用できている場面」を逃さず捉え、児童に声かけすることを授業中に意識して行い、振り返りの充実も図っていく。

また、「学んだこと」を画用紙にまとめ、教室掲示し、子どもの目に触れるようにすることで、児童の学びを蓄積&見える化し、「児童自身が学習で身につけた力を自覚し、意識して力を活用できる」一助とする。

さらに、家庭学習や自主学習をいかして、子ども自ら学びをマネジメントし、活用できる機会を増やしていきたい。





# 4. 研究の成果と課題

## (1) 児童アンケートから見た成果と課題

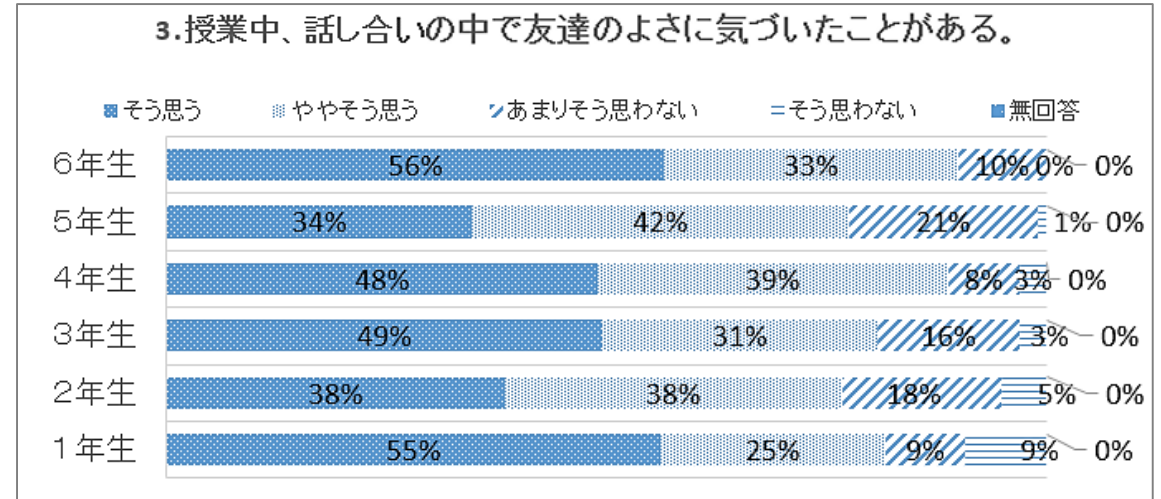
令和元年6月から令和2年11月の間に、学期に一度ずつ児童アンケートを行って、結果を分析し、授業改善に役立っている。

### 成果

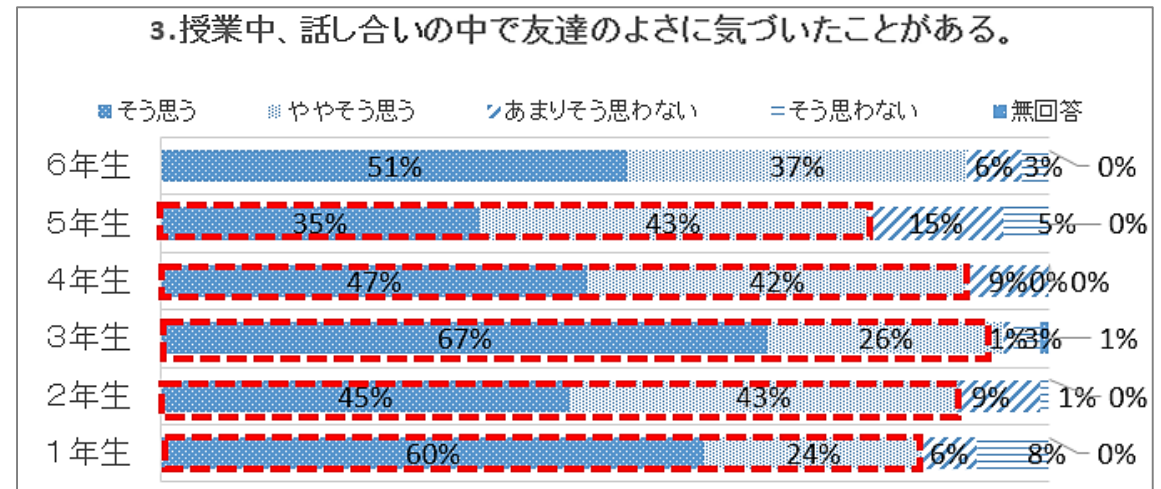
令和2年度の児童アンケートの結果より、「3.話し合いの中で友だちの良さに気づいたことがある」の項目では、肯定的回答が70%台から80~90%台へと伸びてきた。

国語科を中心として、各教科等横断的に言語能力を育成し、対話を重視した結果、今年の研究テーマに掲げためざす子ども像「対話を通して、よさやちがいを認め合う子」に近づいてきた。

令和2年 7月



令和2年 11月

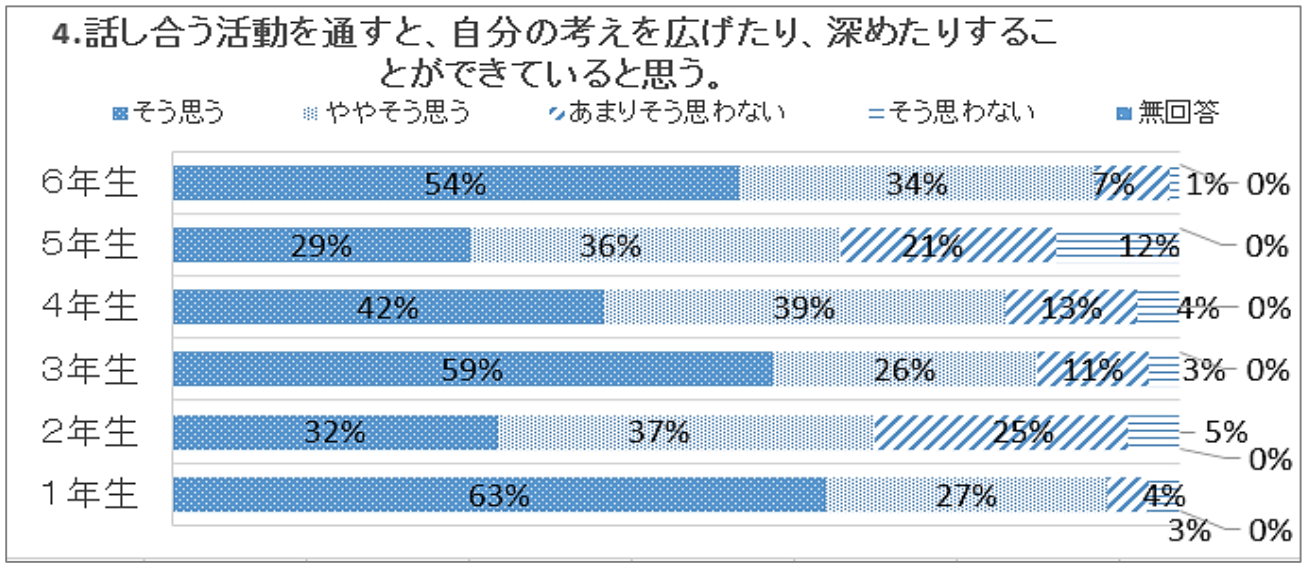
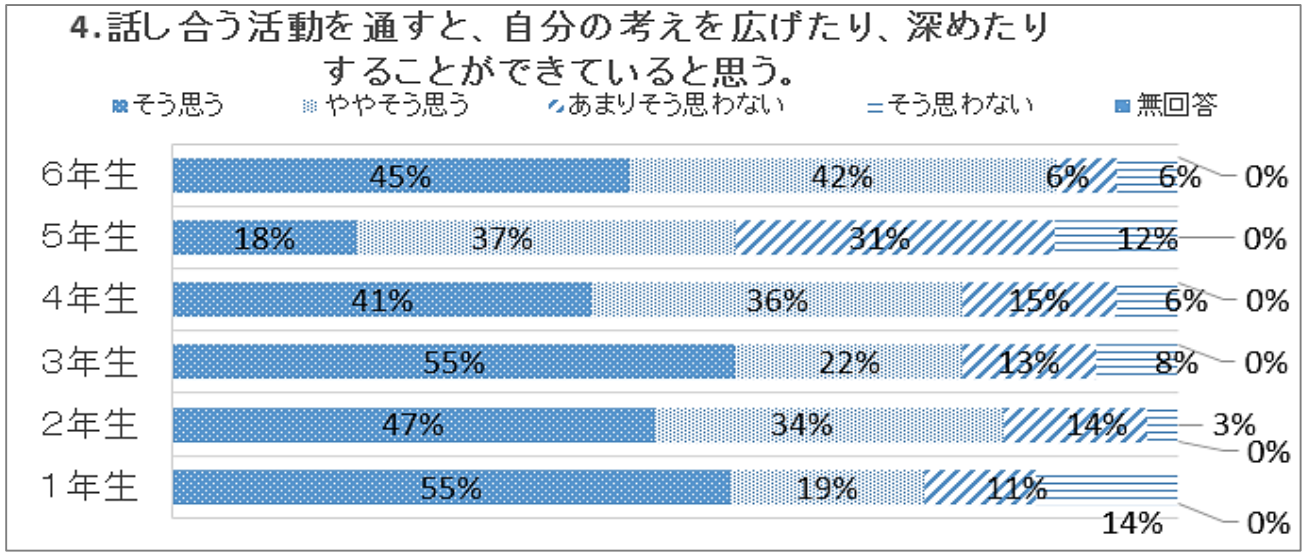


# 課題

一方で、「授業の中で、友だちと話し合う活動を通じて、自分の考えを広げたり、深めたりすることができていると思いますか。」の項目では、肯定的回答は7月と比べて少しずつ上昇しているものの、学年によるばらつきが見られる。

研究テーマのめざす子ども像「気づきを深め合える子」の育成に関しては、授業改善の余地があると考えられる。

改善策としては、話し合い活動では、意見の理由や根拠まで互いに聞くようにし、友だちの考えからの気づきが増えるように授業を考えていきたい。また、ふり返りを充実させ、友だちの意見を聞いて「自分がどのように変わったか」や、「友だちの意見で取り入れられそうなもの」を考えて書くように、全学年で指導に当たりたい。





## (2) 次年度に向けて

二年間、国語科を軸として教科等横断的な視点でカリキュラム・マネジメントを行い、子どもたちの言語能力育成に取り組んできた。今後は、二年間の研究で育てた力を土台にし、国語科の授業改善を継続しつつ、さらに子どもたちが自ら学びをマネジメントし、言語能力を身につけていけるように活用の中を見直すことが重要と考えている。

言語能力育成の活用の中として

・国語科と総合的な学習の時間との関係の見直し

・国語科と行事の関係の見直し から行っていきたい。

子どもたちの交流の中や活躍の中を増やし、互いに学び合うことのよさや、さまざまな場面での気づきを得られるように来年度の指導計画を立てていく必要がある。